

漁海況速報

7-No. 16

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和7年 7月11日～ 7月17日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東30マイル付近を北東に流れ、 $36^{\circ}30'N$ $142^{\circ}30'E$ 付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、 $20\sim 24^{\circ}C$ 台の水温となっている。

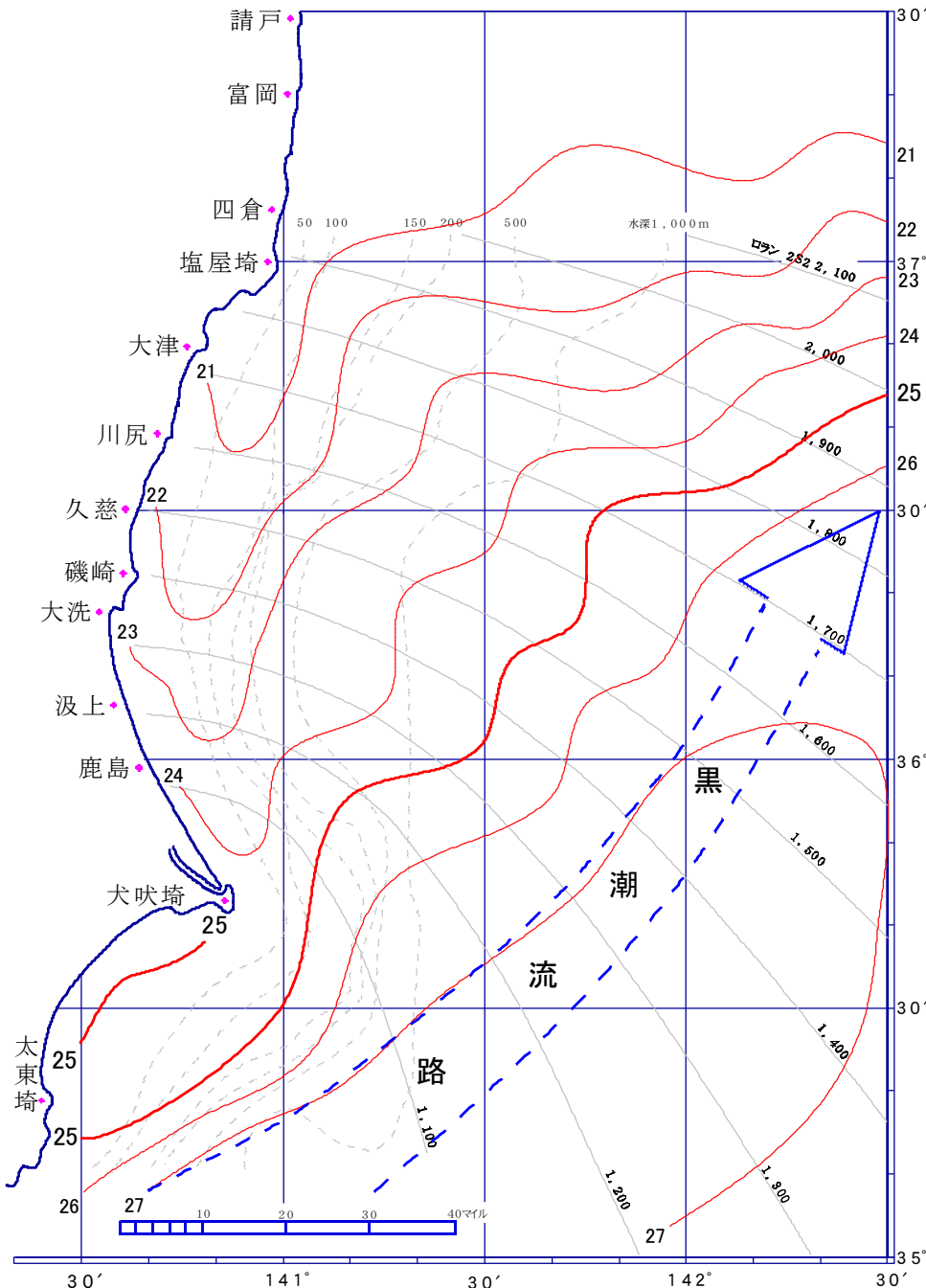
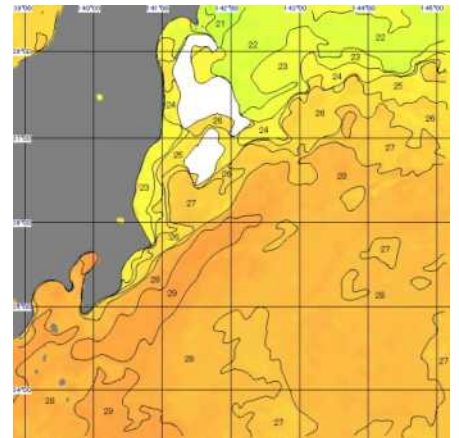
那珂湊定地水温 (°C)

日	令7	令6	平年
7/11	19.7	20.9	19.3
12	20.0	20.7	19.4
13	21.0	21.2	19.4
14	20.9	21.0	19.5
15	21.9	21.1	19.6
16	21.1	21.4	19.6
17	20.6	21.3	19.7
平均	20.7	21.1	19.5

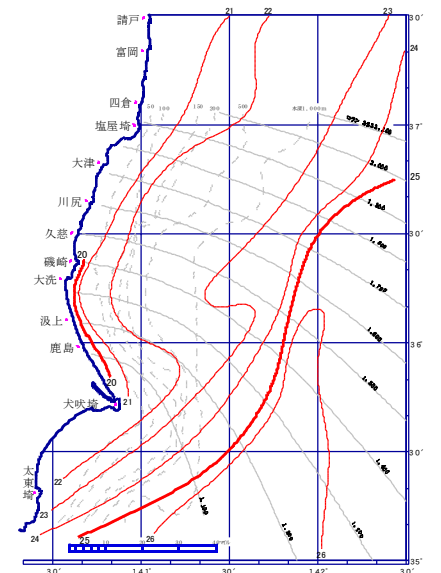
30年平均: 1991~2020年

令和7年 7月11日～ 7月17日

【1週間合成衛星画像】



【海況図】



令和6年 7月12日～ 7月18日

【海況図】

漁況の特徴

7 - No. 16

属地、単位=四捨五入

7/10~7/16

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船曳網	大津	17,196	1,348	23,177,470	64
	"	久慈浜丸小	1,037	1,278	1,325,712	9
	"	久慈町	1,016	1,335	1,355,806	5
	"	那珂湊	46	1,078	49,600	
	"	大洗町	5,064	971	4,918,070	31
ヒラメ	固定式刺網	大津	12	1,280	14,850	
	"	久慈浜丸小	11	1,161	12,540	
	"	那珂湊	53	1,225	65,390	
	その他釣り	大津	12	1,000	12,000	
	"	那珂湊	55	1,544	84,610	
	大型定置網	会瀬	4	1,104	3,864	
タイ類	固定式刺網	大津	6	500	3,000	
	"	久慈浜丸小	1	300	390	
	その他釣り	平潟	13	488	6,241	
	"	大津	11	459	4,910	
	大型定置網	会瀬	9	381	3,585	
スズキ	その他釣り	久慈町	17	850	14,025	
	"	はさき	35	1,289	44,850	
イセエビ	固定式刺網	大津	122	4,471	546,850	
	"	会瀬	102	4,280	436,970	
	"	那珂湊	19	3,492	64,950	
	その他刺網	平潟	8	4,481	35,844	
	その他漁業	"	8	3,275	26,200	
マアジ	大型定置網	会瀬	50	350	17,500	
サバ	大型定置網	会瀬	2,935	42	123,500	
ブリ類	その他釣り	那珂湊	39	598	23,455	
	大型定置網	会瀬	46	321	14,609	

◎ まき網

(漁獲は1投網当り)

今週は時化のため、出漁船はなかった。

◎ 小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大津地先から日立地先で11
~840kg、大洗地先で39~
1,004kgの漁獲。

◇曳釣り

久慈浜地先から那珂湊地先でヒラメ1~
10kg、タチウオ1~3kg、イナダ1~3kg
の漁獲。

◇建網

鹿島地先でヒラメ、イセエビ混じり5~
40kgの漁獲。

注 延隻数:銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

令和6年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和6年漁期（令和6年9月～令和7年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。データの集計は県水産試験場漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

1. 漁獲量及び水揚げ金額（図1）

令和6年漁期の漁獲量は3,035トン、水揚げ金額は13.4億円となり、漁獲量、水揚げ金額ともに前年漁期と比べて増加しました。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚げ金額は7～10億円で推移していましたが、震災後は2,500～4,000トン、11～14億円で推移しています。震災直後は単価の高いヤリイカによって一時的に漁獲量、水揚げ金額ともに増加しましたが、近年は横ばい傾向にあります。

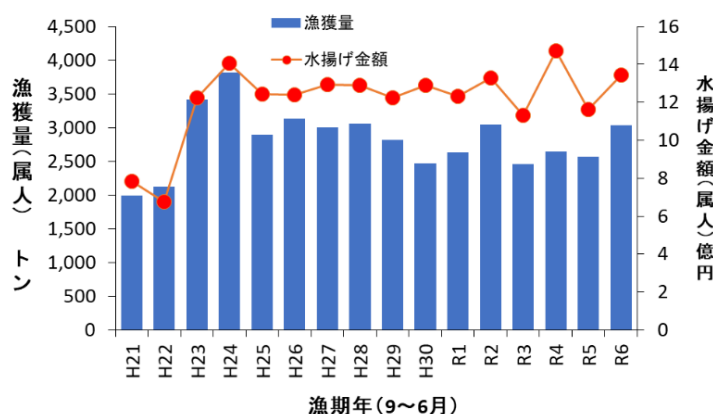


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚げ金額の推移

2. 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種（図2）

令和6年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、1位サバ773トン（前年漁期194トン、2位）、2位メヒカリ455トン（同668トン、1位）、3位ヤリイカ359トン（同166トン、4位）、4位ヤナギダコ73トン（同93トン、6位）5位マアジ70トン（同61トン、11位）、でした。

水揚げ金額の上位5種はヤリイカ、メヒカリ、サバ、スルメイカ、ヒラメの順となり、前年漁期に比べてメヒカリは減少、ヤリイカとその他の種では増加しました。水揚げ平均単価は、ヤリイカ997円（前年漁期692円）、メヒカリ496円（同413円）、サバ108円（同86円）、スルメイカ707円（同685円）、ヒラメ790円（同714円）でした。平成23年漁期以降は、平成27年漁期、令和5年漁期を除いてヤリイカが水揚げ金額1位であり、今漁期もヤリイカが1位となりました。

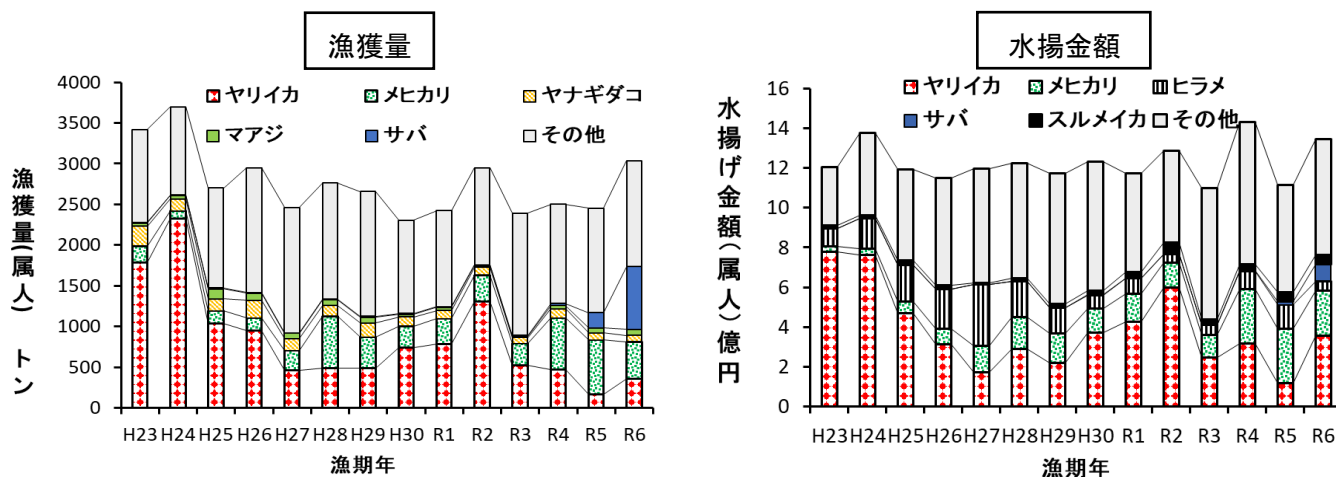


図2 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種の推移

（定着性資源部 西 琉太）

【次回予告】R7.7.25 発行の水産の窓は、「春シラス漁の漁況結果と秋シラスの予測」を予定しています。